



◇2024年・謹賀新年◇

辰年由来とは

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお喜びを申し上げます。
今年の干支は辰（龍）年です。十二支の中で辰（龍）は、存在しない架空動物です。
「龍」は、中国古来より権力の象徴として縁起が良いとされてきましたが、漢字とともに中国伝来の十二支であることが解ります。元々は実在する鱧（わに）の意味もあったと云う解説もあります。

過去の辰年

辰年は争いの勃発する年ともされ、ウクライナ紛争、イスラエル紛争の最中に新たな戦争は願ひ下げですが次の戦争が起きています。
1868年（明治元年）の戊辰戦争、1904年には日露戦争が勃発、また戦後の1952年には1500名が死傷したメーデー事件も辰年でした。
戦後の5回の総選挙のうち3回が辰年に行われ、現在の岸田政権も今年の解散総選挙は織り込み済みであり、4回目の辰年総選挙になります。
誰でも知っている、ロッキード事件やリクルート事件も辰年に発覚しました。一方でお祝い事では、東京スカイツリー開業（2012年）、2000円札発行（2000年）青函トンネルと瀬戸大橋が1988年に同時開業しています。
また東京オリンピックを控えての東海道新幹線開業（1964年）は、このように国家的なプロジェクトとして、戦後からの脱却をはかったもの辰年でした。

◇ファースグループの辰年は◇

昨年の仕込みを具現化の年に

昨年の「卯」ウサギ年は、ウサギの穏やかな性格から2023年も穏やかな年だと思われておりました。確かに大きなアクシデントはありませんでしたが、「ファースの家」の全体的な着工数も低空飛行の様相でした。
コロナ禍の社会的後遺症と云われる建築控えが「ファースの家」の2023年に新築着工数に現れたものと推察されます。
ファースグループの加盟工務店さんを取材しますと、昨年の「ファースの家」建築控え案件は、多くの工務店さんが抱えています。

このような案件は、年明けから着工準備に入り春先の施工物件が多くなるとして、ファースメーカー協会（FMA）にも情報を通達しています。

◇2025年 省エネ基準適合義務化を控えて◇

省エネ基準適合が義務化に

本来は2025年に施行される予定だった省エネ基準適合義務化ですが、住宅業界全体の足並みが揃わないとして延期になりました。
現在は、ペナルティの伴わない「改正建築物省エネ法の説明義務制度」が施行されています。お施主様に住宅の省エネ性能を説明しなさいと云う制度です。一般の地域工務店が、省エネ計算を行ってその性能をお施主様に説明する事だけでも相当に難儀な事です。それが来年からは適合義務化になります。
詳細は決まっていますが、建築確認手続きの中で、省エネ基準への適合性審査を行う必要があります。

高齢化社会の到来が拍車を

高齢化社会の到来で「省エネ基準適合義務化」は、先延ばしできない大きな状況があります。75歳以上の後期高齢者医療負担の国費負担は、2022年の国家予算ベースで18.4兆（厚生労働省の資料）にも及んでいます。
100兆円予算の2割近くは、75歳以上の後期高齢者医療費負担に費やされているのです。地域的には、断熱性の高い家の北海道より本州が多いようです。

断熱性能と疾患率

断熱住宅の供給は、後期高齢者医療費負担の削減に大きく寄与するためです。これは、家中の温かい家に住む後期高齢者の疾患率が特化して低くなるのが統計解析の結果で明らかになっています。
ファース本部は、2017年から大学などの研究機関と連携して、FAS加盟工務店さまにご協力を頂き、ファースの家に住む人の健康調査を実施しました。5年ごとに結果を確認するため現在もまだ計測中ですが、これまでの調査結果では、「健康寿命を延ばす家」を象徴するようなデータが出ています。

温度と湿度

あるハウスメーカーは、断熱住宅を積極的に実践し、「家は性能」のキャッチコピーで展開しています。これは「ファースの家」の存在感にも活用できます。
断熱性能を、ハウスメーカー間の競争に勝つため断熱に特化した住宅を売り出したのです。しかし家屋内を暖かくすることは、湿度（相対湿度）を下げてしまいます。「ファースの家」は、床下に200リッターの水を溜め込む「ファースシリカ」を仕込んでおり、この吸放出で温かくとも一定の湿度を保つ、調湿の出来る日本で唯一の住宅システムです。
今年も自信をもって受注施工して下さい。（著・代表取締役会長 福地脩悦）